

未来に夢を馳せる

田中誠悟 (大阪府立大学生命環境科学部獣医学科6年生)



私は、工学部、薬学部と色々な回り道をして獣医学科に入学した。回り道が良かったのか悪かったのか、今の自分には判断できない。ただ、多くの人々に支えていただいて、今の私があることだけ

は間違いのない事実である。

私が獣医学科に入ろうと考えたのは、あまり純粋な気持ちはなかった。もともと医学の道、特に外科に興味があったものの、自分の性格を考えると他人と協調する自信がなかった。外科は一瞬の判断を要求されるものであると考えており、その部分に魅力を感じていた。人医療においては、外科で開業することは大変であると考えた私は、獣医師という道を選択した。今更ながら安直な考えであったと思う。獣医学科に入学した私は、将来の開業を視野に入れ、1年生の夏休みから動物病院へ、1週間であるが研修に通った。そして2年生の秋に友人の紹介で研修を受けた動物病院で、小動物臨床の面白さを実感した。飼い主とのコミュニケーションや、診断へのアプローチ、治療のプロセス、治癒した時の飼い主の笑顔。私には全てが新鮮で、興味深い出来事であった。この動物病院には、毎週末2年間ほど通わせていただいた。院長から獣医学的知識とともに、人間的なことも指導していただいた。院長が病で亡くなるまでの2年間の経験が、現在の私のバックボーンとなっており、お

そらく今後もそうあり続けると思う。院長が亡くなられた後も、新しい動物病院で研修を続けた。これまで院長や副院長、多くの先輩方からの多くの指導や色々な体験が、現在の大阪府立大学獣医臨床センターでの学習に大変役立っている。将来、私はこれに応えなければならぬと思っている。応えるとは、まずは私自身が与えられた課題を1つ1つ誠実に取り組み、自分自身がレベルアップすることであり、2つ目は私が受けた教えを、今度は後輩たちに受け渡していくことであると考えている。

このためには正確な知識とその知識に裏付けられた行動の積み重ねが重要と思われる。

これらを実行するためには何が必要であろうか。その1つは時代とともに変化し続ける知識・技術を常にアップデートしていくことである。もう1つは自分が率先して課題に取り組むという行動力である。これら2つは、臨床獣医師である限りにおいて求められ続けることである。このモチベーションを維持する原動力こそが、飼い主の満足の笑顔であると本当に思う。私は不純な動機で獣医学の世界に入ったが、動物のためという部分においては不純であるが、こと飼い主のためということに関しては非常に純粋であると思うし、これからも純粋でありたいと思う。

私はこれからも飼い主に対する誠実さと情熱を維持しながら、絶えず知識をアップデートし、その知識に基づいて行動していく獣医師であり続けたいと考えている。

† 連絡責任者 (担当教官) : 大橋文人 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

〒598-8531 泉佐野市りんくう往来北1-58 ☎・FAX 072-463-5960

E-mail : ohashi@vet.osakafu-u.ac.jp